

科目名	年次	区分	開講期	単位	教育目標-GIO	DP1		DP2		DP3		DP4	DP5	DP6		
						基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能	基礎的・応用的な知識・技能
基礎化学演習Ⅲ	2	必修	後期	1	2年前期で学んだ化学系各分野、物理系各分野、生物系各分野、薬理学分野の基礎的・応用的な知識を統合し、より高度な知識を構築する。	○		◎								
薬学概論Ⅲ	2	必修	後期	1	2年前期の薬学概論Ⅰ・Ⅱに、社会における薬物の役割や利用法、副作用、薬物の代謝や排泄、薬物の効果や毒性、薬物の副作用や中毒、薬物の乱用や濫用、薬物の規制や管理、薬物の倫理や法規制、薬物の経済学や社会学、薬物の歴史や文化、薬物の未来や展望について学ぶ。	◎	○	○	○							
分子生物学Ⅰ	2	必修	後期	1.5	本講では、現代の生命科学を理解するための基礎となる知識を得るために、遺伝学・分子生物学・細胞生物学・分子生物学の基礎となる知識を得る。遺伝学・細胞生物学・分子生物学の基礎となる知識を得る。遺伝学・細胞生物学・分子生物学の基礎となる知識を得る。					◎						
有機化学Ⅳ	2	必修	後期	1.5	有機化学は、目的物(医薬品)を合成するという目的に、生体内化学反応の原理に基づき生体内での反応機構を明らかにする。有機化学は、生体内での反応機構を明らかにする。有機化学は、生体内での反応機構を明らかにする。					◎						
構造解析学	2	必修	後期	1	薬学領域において重要な基礎知識として、薬物の構造解析に不可欠な知識を得る。薬物の構造解析に不可欠な知識を得る。薬物の構造解析に不可欠な知識を得る。					◎						
物理化学Ⅱ	2	必修	後期	1.5	薬物の性質を正確に理解するために、溶液に関する基礎知識、熱力学に関する基礎知識、反応速度論に関する基礎知識を得る。反応速度論に関する基礎知識を得る。反応速度論に関する基礎知識を得る。					◎						
微生物学	2	必修	後期	1.5	生体内には細菌、ウイルス、真菌、原生動物などの多様な微生物が存在する。これらの微生物に関する基礎知識を得る。細菌、ウイルス、真菌、原生動物に関する基礎知識を得る。細菌、ウイルス、真菌、原生動物に関する基礎知識を得る。					◎						
免疫学	2	必修	後期	1.5	基礎的・応用的な知識を得る。基礎的・応用的な知識を得る。基礎的・応用的な知識を得る。					◎						
衛生薬学Ⅰ	2	必修	後期	1.5	人々を健康に保つための薬学・医療の基礎知識を得る。薬学・医療の基礎知識を得る。薬学・医療の基礎知識を得る。					◎						
薬理学Ⅱ	2	必修	後期	1.5	薬理学は、薬物の生体内での作用および作用機序を理解するための基礎知識を得る。薬物の生体内での作用および作用機序を理解するための基礎知識を得る。薬物の生体内での作用および作用機序を理解するための基礎知識を得る。					◎						
病態・薬物治療Ⅰ	2	必修	後期	1.5	薬物を用いた病態の治療薬の開発や診断薬の開発、薬物の副作用や中毒の予防、薬物の乱用や濫用の防止、薬物の規制や管理、薬物の倫理や法規制、薬物の経済学や社会学、薬物の歴史や文化、薬物の未来や展望について学ぶ。					◎						
生物系実習Ⅱ	2	必修	後期	1	本講では、微生物の培養・観察、遺伝子工学の実験、免疫学の実験に関する基礎知識を得る。微生物の培養・観察、遺伝子工学の実験、免疫学の実験に関する基礎知識を得る。微生物の培養・観察、遺伝子工学の実験、免疫学の実験に関する基礎知識を得る。					◎						
物理系実習Ⅱ	2	必修	後期	1	物理系実習は、物理化学および薬学基礎の基礎知識を得る。物理化学および薬学基礎の基礎知識を得る。物理化学および薬学基礎の基礎知識を得る。					◎						
化学系実習Ⅱ	2	必修	後期	1	サリチル酸を原料とするアスピリンおよびサリチル酸の合成を行い、生体内での反応機構を明らかにする。サリチル酸を原料とするアスピリンおよびサリチル酸の合成を行い、生体内での反応機構を明らかにする。サリチル酸を原料とするアスピリンおよびサリチル酸の合成を行い、生体内での反応機構を明らかにする。					◎						
漢方薬学	2	必修	後期	1	漢方の理解のために、生体内での反応機構を明らかにする。漢方の理解のために、生体内での反応機構を明らかにする。漢方の理解のために、生体内での反応機構を明らかにする。					◎						
医学概論	2	必修	後期	1	薬学に関する基礎知識を得る。薬学に関する基礎知識を得る。薬学に関する基礎知識を得る。					◎						
精神と健康	2	必修	後期	1	本講では、精神と健康に関する基礎知識を得る。精神と健康に関する基礎知識を得る。精神と健康に関する基礎知識を得る。					◎						
基礎化学演習Ⅱ	2	必修	前期	1	学習者は、1年次で学んだ化学系各分野、物理系各分野、生物系各分野の基礎的・応用的な知識を統合することを知能化を行い、化学、生体、および薬物の基礎的・応用的な知識を得る。	○		◎								
薬学英語Ⅱ	2	必修	前期	1	科学技術の発展に伴い、医薬品や医療機器の開発はグローバルに進行している。外国の文書から医薬品や医療機器に関する基礎知識を得る。医薬品や医療機器の開発に関する基礎知識を得る。医薬品や医療機器の開発に関する基礎知識を得る。					◎						
社会薬学Ⅱ	2	必修	前期	1.5	薬学と社会との関わりを学ぶ。薬学と社会との関わりを学ぶ。薬学と社会との関わりを学ぶ。	◎	○	○	○							
有機化学Ⅲ	2	必修	前期	1.5	生物、薬理、衛生、さらには医薬品を化学構造をもとに理解するために、生体内での反応機構を明らかにする。生物、薬理、衛生、さらには医薬品を化学構造をもとに理解するために、生体内での反応機構を明らかにする。生物、薬理、衛生、さらには医薬品を化学構造をもとに理解するために、生体内での反応機構を明らかにする。					◎						
生薬学	2	必修	前期	1.5	基礎的・応用的な知識を得る。基礎的・応用的な知識を得る。基礎的・応用的な知識を得る。					◎						
分析化学Ⅱ	2	必修	前期	1	1. 化学物質(医薬品を含む)を正確に分析できるようにするために、物質の定性・定量に関する基礎知識を得る。2. 化学物質の分析に用いる試薬の性質、検出限界、検出感度を理解する。3. 化学物質の分析に用いる試薬の性質、検出限界、検出感度を理解する。4. 化学物質の分析に用いる試薬の性質、検出限界、検出感度を理解する。					◎						
分光分析学	2	必修	前期	1	生体内で存在する物質、タンパク質、核酸などの生体内物質、医薬品などの化学物質の構造や存在状態、生体内での反応機構を明らかにする。生体内で存在する物質、タンパク質、核酸などの生体内物質、医薬品などの化学物質の構造や存在状態、生体内での反応機構を明らかにする。生体内で存在する物質、タンパク質、核酸などの生体内物質、医薬品などの化学物質の構造や存在状態、生体内での反応機構を明らかにする。					◎						
物理化学Ⅰ	2	必修	前期	1.5	薬を構成する基本単位である原子と分子の性質を理解するために、原子・分子の構造、化学結合、熱力学に関する基礎知識を得る。原子・分子の構造、化学結合、熱力学に関する基礎知識を得る。原子・分子の構造、化学結合、熱力学に関する基礎知識を得る。					◎						
生化学Ⅱ	2	必修	前期	1.5	生体内で起こる生化学反応のメカニズム、反応速度論、酵素反応、生体内での反応機構を明らかにする。生体内で起こる生化学反応のメカニズム、反応速度論、酵素反応、生体内での反応機構を明らかにする。生体内で起こる生化学反応のメカニズム、反応速度論、酵素反応、生体内での反応機構を明らかにする。					◎						
薬理学Ⅰ	2	必修	前期	1.5	薬理学は、薬物の生体内での作用および作用機序を理解するための基礎知識を得る。薬物の生体内での作用および作用機序を理解するための基礎知識を得る。薬物の生体内での作用および作用機序を理解するための基礎知識を得る。					◎						
生物系実習Ⅰ	2	必修	前期	1	本講では、微生物の培養・観察、遺伝子工学の実験、免疫学の実験に関する基礎知識を得る。微生物の培養・観察、遺伝子工学の実験、免疫学の実験に関する基礎知識を得る。微生物の培養・観察、遺伝子工学の実験、免疫学の実験に関する基礎知識を得る。					◎						

